

せん妄

これまで、いかにボケずに元  
気な老後を送るかにについて書  
いてきましたが、すでに親がボ  
ケてしまった方々から「どうし  
たらよいか」という切実なお手  
紙をたくさんいただきました。  
今日から少し方向を転換し  
て、ボケの「介護と実践」につ  
いて、しばらくお話ししたいと思  
います。

もう一度、基本の話に戻り  
ますが、ボケ（認知症）とは記  
憶障害を中心にして、いくつ  
かの知能が衰えることによつて、  
日常生活がスムーズに送れな  
くなる病気です。

例えば、今食べた食事を忘  
れたり、自分の家が分からな  
かったり、家族の顔を忘れたり  
するのがボケの特徴です。  
でも、まだ、これだけならよい  
のです。ボケの介護が厄介なの  
は、そうした基本的な症状に  
伴う随伴症状が問題なので  
す。

例えば、せん妄、妄想、抑  
うつ気分、不安、暴力、徘徊、不  
穏—などの気分や行動がボケ

た人について回りますので、そ  
れが、ボケの介護をより難し  
くさせているのです。

そこで、その随伴症状につ  
いて、今日から、一つずつ説明し  
ていきたいと思います。

まず、最初は「せん妄」です。  
ちよつと聞き慣れない言葉です  
が、分かりやすく言えば、意  
識の混乱です。突然わめきだ  
したり、恐怖におびえたり、  
ベッドから降りようとしてたりす  
る状態のことを言います。

特に、夕方から夜にかけて  
起こることが多いのですが、こ  
れは、ボケてしまったことで人  
間の本能である「暗闇」に対す  
る恐怖心が主な原因だと言わ  
れていますし、薬の作用も考え  
られます。

こうした症状が  
起こったときはど  
うしたらいいかに  
ついては、ボケに  
伴うさまざまな症状に

ついてお知らせしたあとで、  
まとめてお話ししましょう。



介護報酬改定について

医事課長 渡邊 信幸

平成12年に介護保険のサービ  
ス提供に伴って発生する介護報酬  
制度が導入されました。3年に一  
度見直しすることになっているた  
め、今回が5回目の改定となりま  
したが、消費税増税が見送られ  
社会保険料等の財源不足の影響  
により、今まで一番厳しいマイナス  
の改定となりました。

今回の介護報酬改定には、将  
来、中程度の要介護者や認知症  
高齢者になったとしても、「住み  
慣れた地域で自分らしい生活を  
続けられるようにする」という、  
医療・介護・予防・住まい・生活支  
援が包括的に確保された「地域  
包括ケアシステム」の実現に向け  
た施策が組み込まれました。

それにより、「口から食べる楽し  
みの支援」や「生活行為を維持・  
向上するためのリハビリの実施」な  
ど、介護報酬の算定要件が増え、  
より一層入院されている患者様  
一人ひとりを尊重し、「その人ら  
しい生活」を大切にされた看護・介

護が重要になります。

また、地域に根ざす医療法人  
として、病院に隣接する敷地に、  
来年3月に開設予定の「サービス  
付き高齢者向け住宅」（名称、  
グッドライフケア湘南）を建設し  
ております。病院だけでなく高  
齢者向け施設を運営することで、  
今後も地域の皆様の様々なニーズ  
にお応えできるような医療機関  
を目指していきたいと考えており  
ます。

